

「ボランティア活動」を語る

各宗派
青年僧

五千五百人を越える死者を出した未曾有の大災害、兵庫県南部地震が発生してこの十七日で一年が経過する。現在、あの凄惨な被災地の印象も人々の心の中では次第に風化しようとしている。被災地は一見、もとの平穏な状態を取り戻したかのような印象を人々に与えているが、現地に入ると、復興に向けて動き出しているとはいえ、まだまだその壮絶なツメ跡が至るところに残っている。また、何より震災で家族や財産を一時にして失った被災者の受けた心の傷

はいまだに癒えていない。震災の当初から、物量的な救援の後には息の長い地道な精神的なケアを含めたボランティア活動の必要性が指摘され、宗教者の活躍に期待が寄せられていた。震災が起こったその日から現地に入り、今もボランティア活動を地道に続けている仏教各宗派の青年僧侶を招き、震災の一年間を回顧するとともに、所属教団や行政等への要望や今後の活動における展望などを語り合ってもらった。

雑煮を作り、また、餅搗き大を要望があり、約一千百戸のそを会したり、下着などの物資の仮設住宅街で現在も活動を運んだりする四、五回続けました。

吉田 天台宗は一喝を照らした。そのうちに仮設住宅で新たな問題が出てきて、五月頃からは仮設住宅の訪問を止めた。

小林 全国浄土宗青年会の近畿六教区で取り組むことになり、おしめを現地に持って行った。炊き出しとか西宮の斎場の回向などを行ないました。

菩薩行、報恩行息長く

僧侶だからできる活動継続

——先ず最初に、皆さんが下さい。これまで取り組んでこられた活動の概要について聞かせて下さい。

橋本 私は、自坊が神戸市北区で、各地の青年会や全日本仏教青年会（全日仏青）と連絡をとるのに都合がよく、全真言宗青年連盟（全青連）の事務局長をしています。

震災後、まず各ブロックの青年会会員の安否を確認して情報収集をしました。それから全日仏青やアユース（仏教国際協力ネットワーク）の協力も得て、ひよどり台斎場で仮設の読経所を設けて回向法要を営み、被災者の方にたいへん喜んで頂きました。

現在立派に立派な子供や老人、身体の不自由な人たちに、我々のできる範囲でのケア、すなわちイベント的なものですが映画とか、ぬいぐるみショーとかの活動を続けています。

——宗教者としての活動のあり方については、満足の行く活動ができたと思われませんか。

村山 山折哲雄・国際日本文化研究センター教授が「僧侶は、確かにいっばい動いたが、僧侶らしい活動はできなかったのでは」と指摘していましたが、「僧侶らしい活動」とは何なのでしょう。か。

竹内 山折氏が指摘されていることと、実際に現地で求められていることは違うのではないかと、食糧を持って行った時に「あんなにこの人や『浄土宗の青年会や』『アピールさんでええんか』『別にええんや、食べてもええんや』というよう

宗教者であるから、ということではないかと思うのです。だから、活動の途中からは「布施行」であると考えてるようになり、宗派云々ではなく僧侶として当然のことをさせていたのだと思います。

橋本 被災の現場では、か

と組み、一定地域のバックアップを今も継続しています。降ってわいたような災害であり、土壌もなしに安易に「何かしてあげられるのではないかと考えてやって来たような人は挫折していききました。振り返れば、宗教者としての日常のあり方が厳しく問われたのではないかと、と思いますね。

教団の対応には疑問も

宗教者より人間として活動を

——宗教者としての活動のあり方については、満足の行く活動ができたと思われませんか。

竹内 山折哲雄・国際日本文化研究センター教授が「僧侶は、確かにいっばい動いたが、僧侶らしい活動はできなかったのでは」と指摘していましたが、「僧侶らしい活動」とは何なのでしょう。か。

竹内 山折氏が指摘されていることと、実際に現地で求められていることは違うのではないかと、食糧を持って行った時に「あんなにこの人や『浄土宗の青年会や』『アピールさんでええんか』『別にええんや、食べてもええんや』というよう

宗教者であるから、ということではないかと思うのです。だから、活動の途中からは「布施行」であると考えてるようになり、宗派云々ではなく僧侶として当然のことをさせていたのだと思います。

橋本 被災の現場では、か

ともに災者と



宗教者としての活動のあり方については、満足の行く活動ができたと思われませんか。

竹内 山折哲雄・国際日本文化研究センター教授が「僧侶は、確かにいっばい動いたが、僧侶らしい活動はできなかったのでは」と指摘していましたが、「僧侶らしい活動」とは何なのでしょう。か。

竹内 山折氏が指摘されていることと、実際に現地で求められていることは違うのではないかと、食糧を持って行った時に「あんなにこの人や『浄土宗の青年会や』『アピールさんでええんか』『別にええんや、食べてもええんや』というよう

宗教者であるから、ということではないかと思うのです。だから、活動の途中からは「布施行」であると考えてるようになり、宗派云々ではなく僧侶として当然のことをさせていたのだと思います。



被災者の安否を確認し合う友人や知人と仮設電話の場所

座談会 苦勞



活発に意見交換する(右から)平野、
小林、竹内、吉田、村上、橋本の各氏

兵庫県南部地震から一年

京都教区浄土宗青年会会長

小林 浩輝氏

天台仏教青年連盟副代表

竹内 純照氏

全真言宗青年連盟事務局長

橋本 寛昌氏

全真言宗青年連盟事務局次長

平野 雅章氏

浄土真宗本願寺派

高岡教区寺族青年会前会長

村上 教文氏

天台仏教青年連盟前副代表

吉田 慈敬氏

ような言葉が頻りに出てくるわけですね。それも宗門の中の

宗教者というより、一人の人間として考えることが大切だ

方もあるでしょう。それをひきつらねて「宗教者の役割」という言い方は非常に大胆な意見だと思えます。

こんな状況で「僧侶とは何か」「僧侶らしい活動とは何か」を云々しても仕方がない。先ず自分の僧侶としてのあり方を問わないと駄目ですね。私は、別に「僧侶らしい活動」にこだわる必要はない、ただ信心に基づいて行動すればよいと思えます。

真言宗は、今回の震災で一致団結して活動ができたと思えますし、また、その中で他宗派のSVA(曹洞宗国際ボランティア会)、浄土真宗、臨済宗、浄土宗の方々とともに結ばせて頂きました。これは、とかく既成仏教の団の悪癖と言われていますが宗派意識、その垣根を超えた活動への可能性を見いだすきっかけではないかと思うので、活動をしました。

橋本 寛昌氏



橋本 寛昌氏



小林 浩輝氏

日常の姿勢を見直そう

現地での活動 地元でもできるはず

吉田 天台仏教連盟として「折り」を第一義的に考えています。今回の震災に際しては、そのことが充分に出せなかったが、犠牲となられた方一人々と関わっていく中で、その思いを今後の活動の中に生かしていければと思っています。

復興の兆しが見え始めているとはいいますが、震災の後遺症は立場の弱い人たちに大きな負担を強いています。宗教者がこうした人たちの心の支えになるためにも、超宗派でみんなが集える場所が欲しいですね。

平野 現在も活動を継続されている方々は、本当に宗教者としての資質を持っている人たちだと思います。しかし、その一方で、資質が無くても衣を着ている人たちがたくさんいるわけで、このような人たちをどう活動に呼び込むかが問題ですね。

村上 先ほども「宗教者としての活動」「仏教ボランティア」という言葉が何度も出てきましたが、そうした言葉をわざわざ使わなければならないのは、普段何もしていないことの裏返しではないでしょうか。

橋本 震災は日常生活を完全に破壊しましたから、あえてモラルのことを言う必要はないのかもしれませんが、「宗教者の役割」とは先ず自らが問わねばならぬことでしょう。

橋本氏も指摘しておられますように、思想や宗教の壁を超えてお互いが手を携えて活動する場を作っていくことは、本当に大切なことだと思います。

竹内 モラルなんてことをあえて言わねばならぬことが問題です。震災の直後に京都

被災者の方々の悩みや苦しみは、他人事ではない、我々自身の問題であると捉えて、一日でも長く皆さんとともに歩ませて頂きたいと願っています。

例えば、半年経って寺を再開する。生きるためには損をしなければならぬのですが、損んだものはいずれは離さなければなりません。しかし、そのタイミングが宗教者なのに分からない人もいます。

村山 教文氏

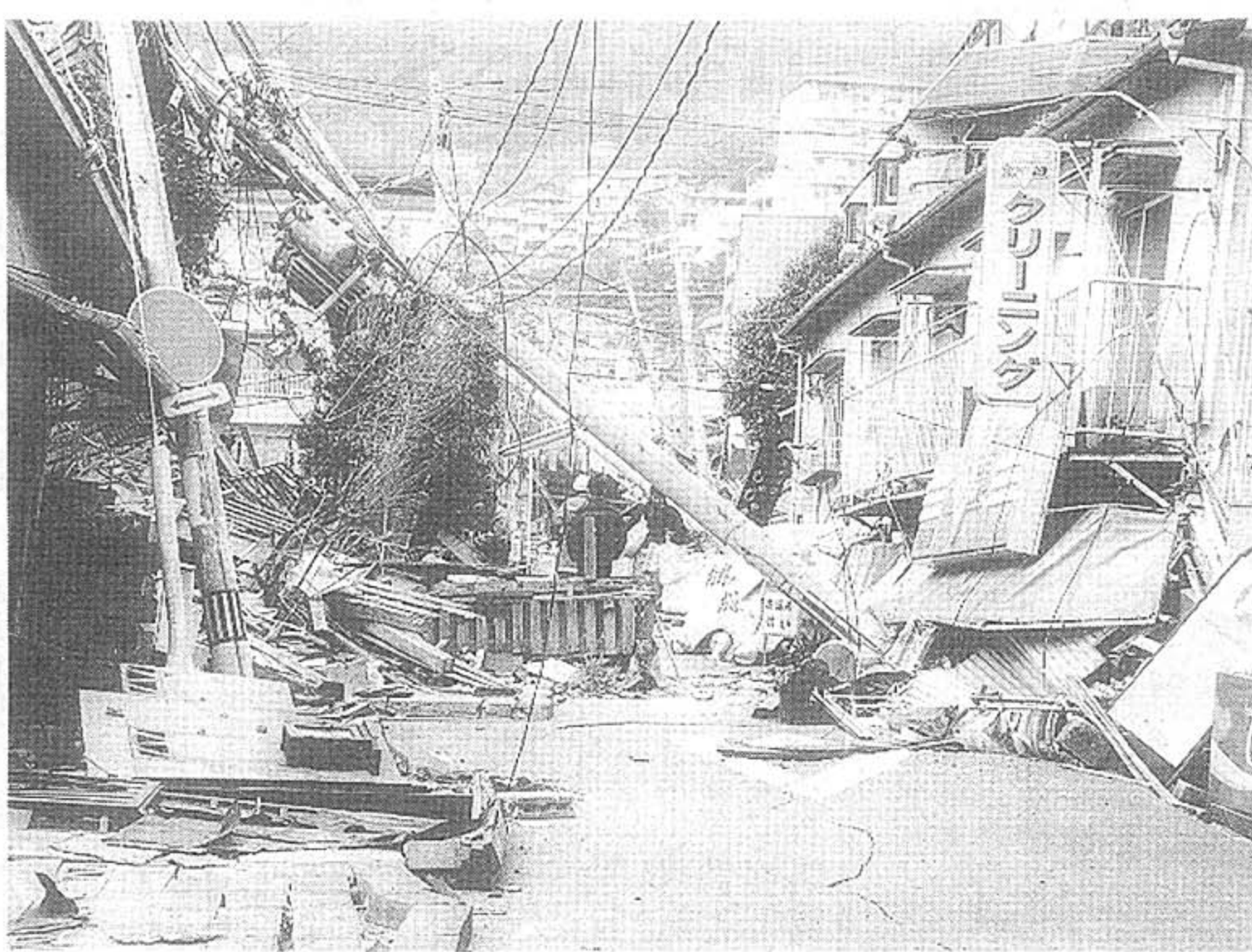


竹内 純照氏



村上 教文氏

今回の震災では一瞬にして電気、ガス、水道などライフラインが破壊され、市民とボランティアの長く苦しい戦いが始まった



災害時のマニニユアルを作ろう

報道重点オウムに移る

次第に薄れゆく世の関心

寺院に冷たい
一般マスコミ

——オウム真理教の事件以降はマスコミの関心が神戸からオウムに移り、国民の関心も薄れてしまったのですが、これが皆さんの活動にも影響したのではありませんか。

村上 時間の経過に従って

人々の関心が薄れていくのはある意味では仕方がないことですが、オウムの事件はやはり神戸の人たちにとり大きなマイナスだったと思います。

吉田 去年はちょうど戦後

五十年だったのですが、その年に震災とオウムの事件が起こったことは、人間とは何かが問われた年というべきではないでしょうか。

平野 いまマスコミの話が出ましたが、このような震災

の場合、一般マスコミはあまり寺院の話を取り上げないように思います。マスコミは否定するでしょうが、被災にしても神社や教会の扱いが大きかったでしょう。

だから、僧侶がボランティアをしてもあまり取り上げられない。「それは当然のも得られないのでは」と危惧することでしょう」との理由です。

吉田 別にこちらから売り込みが必要はないですが、「私

一周忌をねんごろに

仮設住宅の訪問続ける

——まもなく一周忌を迎えますが、追悼法要などを含めて今後の計画について聞かせて下さい。

橋本 全真言宗青年連盟では、一月十七日に犠牲者の慰

また、須磨寺では送り火法要を営みますし、全日本仏教青年連盟や神戸仏教青年会とも映画や鑑賞会など催してまいりましたが、これは今後も継続して行ないたいと思います。

村上 一月十七日に、本願

私たちはこのような活動をして

いるので、皆さんも集まって来て下さい」という願いがなかなか伝わらないのは事実ですね。

竹内 私は京都ですが、京都という近くにいると、もう神戸は過ぎ去った出来事になっていきます。ですから今後は、マスコミでは伝わらない情報を伝え、被災地とこちらをつなぐ媒体としての活動も大切だと考えています。

寺神戸別院や、灘区の光園寺の境内にあります。私たち青年僧侶の活動拠点「六甲庵」では、一周忌法要やバザーを予定しています。

私は一月十六日から二十四日までの間、神戸に入り、高岡の方から仏教や仏教の会館らをとんとんと神戸に送り込んでもらい、こうした催しのお手伝いをさせて頂こうと思っています。

それに、これまで約二千戸

袈裟を外して活動を

宗派意識拭い去るため

——先ほどからマニニユアルのことが、超宗派の活動拠点のことが話題となっています

が、この点についてご意見等があれば聞かせて下さい。

村上 少し乱暴に聞こえるかもしれませんが、安全な所においてあれこれとやっていても仕方がないわけで、私たちのような若手が真っ先に現地に入り、詳細の状況を把握し、判断して各関係団体に連絡をとることが先決だと思っています。

それとですね、一人でも多くの被災者と接触を持ち、話し合っ、現地の人たちの間に信頼関係を築き上げることも大切なことです。

竹内 今回の震災では情報が迅速、的確に伝わらなかった点が大きな問題だったと思います。それで、私どもではパソコン通信のネットワークで情報伝達がスムーズに行くようにしようとしています。

これは、今後の教化活動のことも含めたものですが、緊急の際にはそれに即応できるような情報網の構築が必要で

す。

ばせて頂きましたので、こち

日には現地で慰霊法要を営ま

る者で地域と密着した地道な活動を続けていくつもりです。

お元気で暮らされているかどうかを確認しようと思ってい

ます。

がらみ)もあり、動き難い面

竹内 一月十六、十七の両

も出ていますので、十七日

全日仏教青年連盟が設置

され、この活動の一環として

震災の救援本部を急遽設置して活動してきましたが、一月

十四日から十七日までの念仏行脚(知恩院を出発して国道

171号線を通り、神戸市東

灘区で本堂の下敷きになり死

去した住職の寺まで)を実施した後、一応救援本部を解散

します。

これからは、今後このよう

な災害が起こった時に私たち

青年僧侶のボランティアは、

どのような活動をするべきか

のマニニユアルといいますが、本を作ろうと思っています。

小林 先ほどから指摘されて

いますが、行政や組織の問題について言うと、どうして

も日数が経つと政治や組織が

前面に出てきて最初のように

がむしゃらには活動ができなくなりまして。この弊害を何とか打破するような活動のあり方も検討されなければなりません。

橋本 超宗派での活動という

ことなのですが、我々僧侶は袈裟を着ているというし

ても宗派意識が出てきますので、袈裟を外してやらねばならない部分が出てきます。

そして、そのようにしてや

っている分には別に問題はないのですが、少し離れた所で

見ている人たちは、どの宗派が良いかと優劣の視点で見ているのです。

超宗派、全国レベルでの活

動となりますと、全日仏教な

どが中心となるべきでしょうが、その活動には、宗派は関係無いという意識の転換が先

ず必要ではないでしょうか。

だから、各宗派が宗派仏教の

レベルでの組織のリニユアルに取り組みべきです。



鉄道や道路など都市の大動脈はすべて分断され、人々はひたすら歩いて神戸へと向かった